

Toyota Municipal Museum of Art Press Release

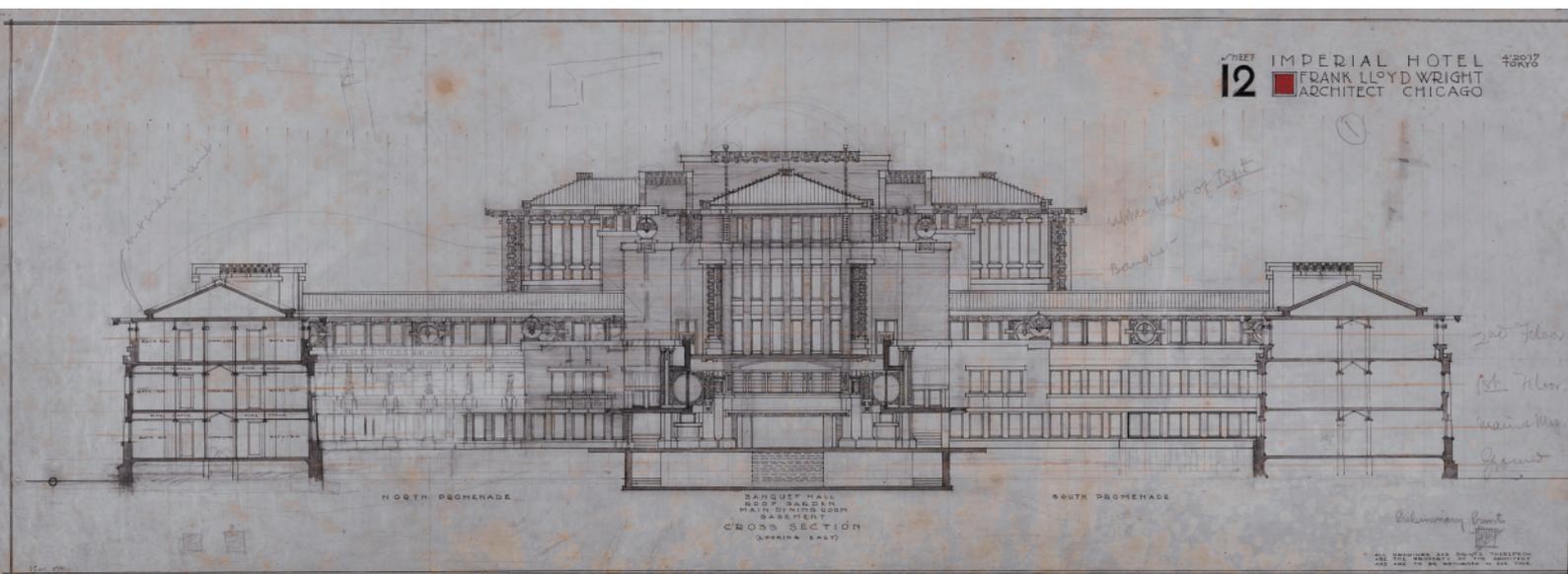
豊田市美術館 プレスリリース

2023.7.26



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館



帝国ホテル二代目本館 横断面図、1915-1922年

帝国ホテル二代目本館100周年

フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築

The Imperial Hotel at 100:
Frank Lloyd Wright and the World

2023年10月21日[土]—12月24日[日]

開館時間： 午前10時-午後5時30分(入場は午後5時まで)

休館日： 月曜日

主催： 豊田市美術館、フランク・ロイド・ライト財団

共催： 中日新聞社

特別協力： コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館、株式会社帝国ホテル

助成： 公益財団法人ユニオン造形文化財団

展示協力： 有限責任事業組合 森の製材リソラ

後援： アメリカ大使館、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、
一般社団法人DOCOMOMO Japan、有機的建築アーカイブ

観覧料： 一般: 1,400円 [1,200円] / 高校・大学生: 1,000円 [800円] / 中学生以下無料
[]内は前売券及び20名以上の団体料金
・前売券の詳細及び観覧料の減免対象者及び割引等については当館ウェブサイトをご確認ください。

会場： 展示室6-8

会期中一部展示替えをします
前期 11月19日[日]まで / 後期 11月21日[火]から

開催趣旨

アメリカ近代建築の巨匠フランク・ロイド・ライト(1867-1959)。「落水荘」や「グッゲンハイム美術館」で知られるライトは、「帝国ホテル二代目本館」や「自由学園明日館」を手がけ、熱烈な浮世絵愛好家の顔も持つ、日本と深い縁で結ばれた建築家です。

帝国ホテルが落成したのは、いまからちょうど100年前の1923年、関東大震災の発生当日にあたります。災禍を生き延びたことで、ライトに大きな名声をもたらしたこの帝国ホテルは、広大な敷地に客室のほか劇場や舞踏会室などさまざまな施設を備えた、それ自体が都市であるかのような壮大なプロジェクトでした。そこには、ライトが過去に出会った多様な文化からの応用が認められ、またこのときの試みは、以後のライトの建築のなかで豊かな展開をみせることとなります。周囲の景観との有機的なつながり。ミクロとマクロの間を行き来するダイナミックなユニット・システム。自然と結びついた高層建築の構想。帝国ホテルとはまさに、彼にとって結節点に立つ建物だったことがわかります。

2012年にフランク・ロイド・ライト財団から図面をはじめとする5万点を超える資料がニューヨーク近代美術館とコロンビア大学エイヴリー建築美術図書館に移管され、建築はもちろんのこと、芸術、デザイン、著述、造園、教育、技術革新、都市計画に至るライトの広範な視野と知性を明るみにする調査研究が続けられてきました。本展ではこうした近年の研究成果をふまえ、財団およびエイヴリー建築美術図書館の全面的な協力のもと、帝国ホテルを基軸に、多様な文化と交流し常に先駆的な活動を展開したライトの姿を明らかにします。

世界を横断して活躍したライトのグローバルな視点は、21世紀の今日的な課題と共鳴し、来るべき未来への提言となるはずです。

監修者

ケン・タダシ・オオシマ氏(ワシントン大学建築学部教授)

特別アドバイザー

ジェニファー・L.グレイ氏

(フランク・ロイド・ライト財団 タリアセン・インスティテュート・ディレクター、元コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館キュレーター、元ニューヨーク近代美術館キュレーター)

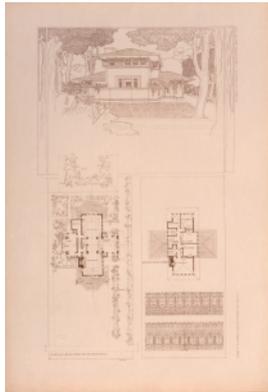
展示点数

約 420 点

展示構成

1. モダン誕生 シカゴー東京、浮世絵的世界観

ライトが建築家としてのキャリアをスタートしたのは大都市化の進むアメリカ、シカゴ。同じ頃、明治維新を経た新生日本の首都東京も急速に近代都市への歩みを進めます。ライトはこの二大都市の文化とその交流から大きな影響を受けました。なかでも特筆すべきは、シカゴで高まった日本美術愛好の熱に触れ、日本と浮世絵的世界観に大きく惹かれていったことでしょう。



K.C.デローズ邸、平面図および透視図 『フランク・ロイド・ライトの建築と設計』1910年

う。1905年には初来日し、帰国の際には膨大な浮世絵コレクションも持ち帰りました。

展示では、浮世絵の影響が明らかなライトの建築ドローイングやライトが手がけた浮世絵の展示プランを紹介。また初期の重要な建築「ユニティ・テンプル」の図面や師であったシカゴを代表する建築家ルイス・サリヴァンのもとで手がけた緻密な装飾ドローイングも紹介します。

2. 「輝ける眉」からの眺望

ライトにとって、地形や風土は建築と密接に結びついたものでした。アメリカ中西部タリアセンの地で確立されたプレーリー・スタイル。深い軒を持ち、水平的な広がりをもつ住宅は、外部と内部が有機的につながるライトならではの建築といえます。また「山邑邸」など、日本の険しい地形での設計体験は、自然と融合した豊かな建築の創造を促すことになりました。庭園デザイナー、ジェンス・ジェンセンとの協働による庭も、四季に応じて変化し、在来種と外来種とが共存する多世界、多文化の共存として注目すべきものがあります。



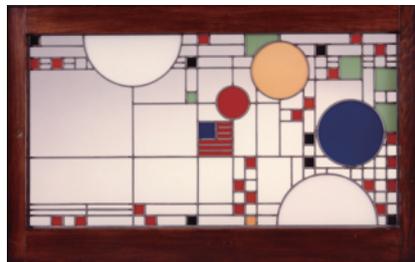
小田原ホテル計画、1917年

展示ではプレーリー・スタイルの代表的住宅として、「エイヴリー・クーンレイ邸」や「デローズ邸」を紹介し、日本での実践として「山邑邸」や「小田原ホテル」を取り上げます。

3. 進歩主義教育の環境をつくる

ライトと教育には深いつながりがあります。教育者であった母の影響も大きいでしょう。ライトの建築思考と幼児期に受けたフレーベル教育の関係はしばしば指摘されるところであり、彼がのちに教育の場としてのタリアセン・フェローシップを開設する動機付けともなっています。

展示構成



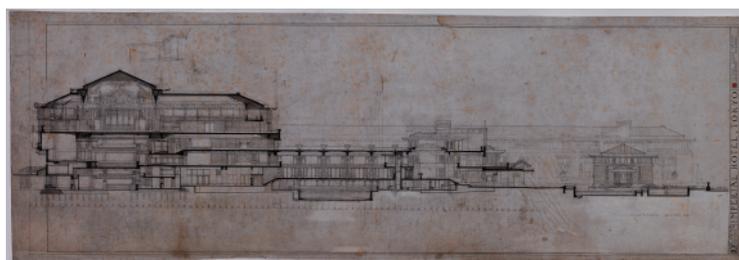
クーンレイ・プレイハウス幼稚園の窓ガラス、1912年頃

展示では、「クーンレイ・プレイハウス幼稚園」のためのドローイングと実際に使用されたステンドグラスや家具のほか、今につづく「自由学園」の図面や模型を紹介し、本章を通して、ライトはもちろん、同時代の女性たちの先進的な活動を改めて見直すことになるでしょう。

4. 交差する世界に建つ帝国ホテル

広大な敷地に様々な付帯施設を備えた帝国ホテルの建設は、都市計画にも似たメガ・プロジェクトでした。ライトが、建物だけでなく、家具・食器など総合的にデザインに携わったのも注目すべき点です。日本の土地にふさわしい素材として大谷石とテラコッタが選ばれ、各装飾にはライトがそれまでに経験した様々な文化からの応用が認められます。

展示では、帝国ホテルの図面やドローイング、実際に使われていた家具のほか、記録写真やパンフレットなど、当時の文化としてのホテルの姿も紹介します。また、帝国ホテルと同時期に設計された「ミッドウェイ・ガーデン」のドローイングも展示し、共鳴し合う二つの設計を通して、ライト建築の特徴を明らかにします。



帝国ホテル二代日本館 左上に饗宴場「ピーコック・ルーム」が描かれた縦断面図、1919-22年



帝国ホテルの椅子、1930年頃

5. ミクロ／マクロのダイナミックな振幅

ライトは小さなものから大きなものにまで展開可能なブロック・ユニットによる建築を考案しました。全体と部分とがダイナミックに呼応し合うライト建築の発想の根幹には、彼が幼少期に受けたフレーベル教育があったことも指摘されています。ライトはまた素材についても強い関心を持ち、地域に根ざした材料を用いる一方で、コンクリートのもつ可塑性に着目することで、グッゲンハイム美術館のような一体型の巨大建築も実現しました。

展示では、コンクリート・ブロックによって実現した「ミラード邸」や「ドエニー・ランチ宅地計

展示構成

画案]、「サン・マルコ砂漠リゾート・ホテル計画案」といった大プロジェクトのドローイングを紹介し
ます。またライトが考案した新たな工法によって実現可能になった、一般的な家族のための手ごろな価格のコンパクト住宅「ユースニアン住宅」トの一部を再現。さらにコンクリート建築の究極の形としてライトが構想した、らせん状建築のドローイングも紹介します。



G.ストロング・プラネタリウム計画案 透視図、1925年

6. 上昇する建築と環境の向上

水平方向への広がり印象的なライト建築ですが、一方でライトは垂直に伸びる高層建築にも早くから関心を示しました。景観規制から実現しませんでした、帝国ホテルの当初案を見ると、屋根のある高層建築が描き込まれているのがわかります。樹状構造を生かした「ジョ



パワリー・セント・マークス地区のアパートメント計画案 透視図、1929年

ンソン・ワックス本社ビル]や超高層の「プライス・タワー」の経験を経て構想された「マイル・ハイ・イリノイ」のプランから



高さへのライトのあくなき挑戦もうかがわれます。

ジョンソン・ワックス本社ビル

7. 多様な文化との邂逅

ライトを形作ったのは、多様な文化との出会いと交流でした。本章ではライトとアメリカ国外の作家たちの交流を取り上げると共に、重要なインスピレーション源としてのイタリアに注目します。また、非西洋への眼差しとして、アメリカ先住民文化を取り入れた「ナコマ・カントリー・



リヴィング・シティ計画、1958年

クラブ」の計画案やイスラム圏への提案としての「大バグダッド計画案」の鳥瞰ドローイングを紹介し
ます。ライトの未来を見通す目もまた注目すべきものです。広い大地に高層ビルが建ち、電話や飛行機などの新しいテクノロジーによってネットワーク的につながる世界は、私たちの未来を示しているよう
です。



展覧会の見どころ 最新のライト研究に基づく内容構成

2017年にニューヨーク近代美術館で大々的に開催されて話題を呼んだ「Frank Lloyd Wright, Unpacking the Archive」。同展の企画メンバーであったケン・タダシ・オオシマ氏とジェニファー・L.グレイ氏による全面協力のもとに本展は実現しました。展示では、2012年にライト財団からコロンビア大学エイヴリー建築美術図書館とニューヨーク近代美術館に移管された建築ドローイングや図面の数々を紹介しします。緻密で繊細、構図にも工夫を凝らしたライトの建築ドローイングを間近でご覧いただけるまたとない機会です。

帝国ホテル100周年＝関東大震災100周年を機に見直す帝国ホテルの魅力

最初の構想から10年の歳月をかけて実現した帝国ホテルには、アメリカ中西部からラテンアメリカ、ヨーロッパ、日本まで、ライトが経験した様々な風土と文化から取り入れられた要素が凝縮されています。またこのときの経験や建築についてのアイデアは、後のライトの建築や都市計画にも形を変えて様々に展開されていきました。ライトのキャリアの中心軸に帝国ホテルを据え、その魅力に迫ります。

ライトが提案した「ユースニアン住宅」の再現

ライトが主宰した実践教育の場「タリアセン・フェローシップ」。そこに学んだ磯矢亮介^{いそやりょうすけ}氏の協力のもと、会場内にライトが提言した「ユースニアン住宅」の一部を再現します。狭さと広がり、進むにつれて次第に明らかになる空間の展開、有機的につながる内と外。ライトの建築の空間スケールを実際に体験していただくことで、ライトの理解が一段と深まります。

関連イベント

ケン・タダシ・オオシマ氏、ジェニファー・L.グレイ氏による記念講演会

日時：10月21日 [土] 午後2時～

会場：講堂

定員：150名 聴講無料

その他関連イベントについては、決まり次第、美術館ウェブサイト、SNS等でお知らせします。

お問合せ

豊田市美術館 〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1

HP:<https://www.museum.toyota.aichi.jp> e-mail:bijutsukan@city.toyota.aichi.jp

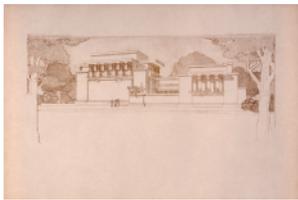
- 展覧会に関すること 学芸担当：千葉、西崎 Tel 0565-34-3131
- 掲載依頼・取材等に関すること 庶務担当：加藤、大柳(おおやなぎ) Tel 0565-34-6748

「フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築」 広報用画像について

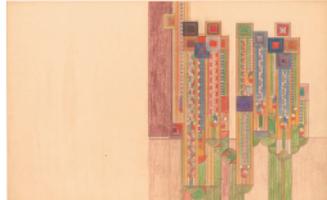
当館ウェブサイト「広報用画像ダウンロード」申込みフォームより、ご希望の画像を申請してください。
「広報用画像ダウンロード」の画像提供サービスは、パソコンでのみダウンロード可能となります。
パソコンからのお申し込みが難しい方は、以下を記入のうえ、Fax(0565-36-5103)でお送りください。

お名前	様	ご所属
Tel		Fax
必要な画像等の番号		
掲載紙／メディア名	発売、放送予定日	月 日(月号、vol.)
必要な鑑賞券枚数(最大5組10名分)	枚	鑑賞券の送付先

*読者プレゼントのため等、希望する場合のみご記入ください



1



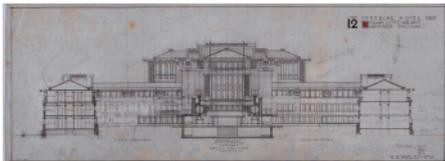
2



3



4



5



7



8



9



6

1. ユニティ・テンプル 正面『フランク・ロイド・ライトの建築と設計』1910年 2. リバティ誌のための表紙デザイン案 サボテンとその花、1927-28年
3. クーンレイ・プレイハウス幼稚園の窓ガラス、1912年頃 4. ラーキン・カンパニー・ビルの椅子付き事務机、1904年頃
5. 帝国ホテル二代目日本館 横断面図、1915-22年 6. ドエニー・ランチ宅地計画 全体透視図、1923年 7. ジョンソン&サン社の椅子、1936年頃
8. バワリー・セント・マークス地区のアパートメント計画案 透視図、1929年 9. 大バグダッド計画案 鳥瞰透視図、1957年

■所蔵先: 1,3,4,7: 豊田市美術館、 2: 米国議会図書館、 5,6,9: コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館 フランク・ロイド・ライト財団アーカイヴズ
8: ニューヨーク近代美術館

©The Frank Lloyd Wright Foundation Archives (The Museum of Modern Art | Avery Architectural & Fine Arts Library, Columbia University, New York)

資料の使用には以下の点にご注意ください。

- ・作品写真のトリミング、文字のせはご遠慮いただき、所蔵先、クレジットも表示してください。
- ・ご紹介いただく場合は、情報確認のためお手数ですがゲラ刷り等をお送りください。

美術館使用欄 画像提供の依頼日 年 月 日 画像送付 校正 修正 配信・配本